

博報堂生活総合研究所が、生活予報 2002 を発表しました。

生活予報 2002
対立は、雑種強勢を生む。

株式会社博報堂 博報堂生活総合研究所(略称:博報堂生活総研)では、1982 年から毎年年末に翌年以降の生活者動向を予測した「生活予報」を発表しています。その 21 冊目にあたる 2002 年版が発刊になりました。テーマは、「対立は、雑種強勢を生む。」。混迷を深める社会の中で、新しく生み出されていく価値やビジネスを展望しています。

予報の要点

社会構造が変化し、混沌が深まる現代。それは、社会のあちこちで、大小さまざまな新しい対立を生み出しています。

そうした対立は、商品、組織、ライフスタイルが変わるきっかけになることも多いものです。なぜならば、対立は、一方が他方を負かすという単純な結末にはなるわけではありません。対立の一方は、他方の一部分を取り入れながら変わってゆくのです。

それは、つまり新しい雑種が作り出されることを意味します。

生物学には、雑種強勢という言葉があります。雑種は、必ず純粋種の親よりも適応力や生殖力や大きさにおいてまさるとい現象です。

対立の中、雑種が増えていく2002年。その雑種こそが、これまでになかった価値を生み出します。そしてそれは、生活者の周囲のあらゆる場面で、雑種強勢の現象を起こします。

雑種によって生まれた価値や商品やビジネスは、リスクに強く、リノベーションの力もあります。この生活予報では、50 の生活シーンを取り上げ、そこでおこる雑種のたくましさを予測しました。

生活予報 2002 : 一辺 240 ミリの正方形の本で、150 ページ。定価 7,000 円で 12/17 より市販されます。

本件に関するお問い合わせ先

博報堂生活総合研究所

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-2 2

電話 (03) 3233-6450 担当: 大田

生活予報2002 「対立は、雑種強勢を生む」

■博報堂生活総合研究所の調査では、生活者の「対立」への関心が高いことを示しています。

今後、物事や意見が対立するが増えると思う人	90%
今後、思ってもみないものが対立するが増えると思う	83%
意見が人とぶつかった場合、きちっと自分の意見を言うべきだと思う	96%
世界的に見て日本人は対立したときの対処の仕方が下手だと思う	95%

(2001年8月調査：男女389人)

■対立が増えた要因は9つあります。

1. 世界経済が停滞。パイの奪い合いが増えています
2. 生き残りのために他の分野への参入が増加しています
3. グローバル化に反発する地域文化が強まっています
4. 改革が各論へと進み、利害対立が顕在化しています
5. 社会の安定感が失われ、不安から人とぶつかります
6. 技術革新で思わぬものが競合するようになります
7. 生命科学の進歩はいままでの価値観を揺さぶります
8. 人口構成の激変で年代ごとの利害が食い違ってきます
9. 自分の価値観や好みを主張する人が増えています

■対立は、雑種を生みます。

対立が起こると、生き残るために、意識的、無意識的に、相手に存在して自分に欠けていることを補おうとします。皮肉なことには、そうして弱点を補っていくと互いに雑種化してきます。「敵は似てくる」のです。

対立する相手が強大なとき、他の対立するものと雑種化することで、もっと怖い相手に対抗しようとする場合もあります。ただし、単なる規模を大きくする合併では強くはなれません。まさに雑種として、血を混ぜていくことが必要です。

■雑種は、純粋種に無い適応力と創造力を持っています。＝これが「雑種強勢」

雑種強勢には、「 $-R$ と $+R$ の効果」があります。

$-RISK$ リスクを減らす効果

純粋種よりも「リスクrisk」に対応する幅が広がります。

それは、組織や社会のあり方でも同じ。純粋で単線型の技術は、効率は良くても脆いのは一例。

$+RENOVATION$ リノベーションを増やす効果

「修復・革新・元気付けrenovation」がなされ、新しい価値を生み出せます。

雑種の増加は、リノベーションという形でプラスを増やす方向です。

雑種強勢の生活シーン例

(予報) 携帯電話と公衆電話の対立で、電話ボックスが情報コンビニになる。

携帯電話の普及のあおりを受けて、町の公衆電話が減っています。しかし、IC公衆電話では、すでにLモードが導入されています。ケイタイイコマースでやろうとしていることの多くは、IC公衆電話でもできるのです。しかも、帳信の安定性では、有線に分があります。今後の改良で、大型のカラー液晶画面、プリンター機能、バーコードスキャナー、キーボードなどが付けられるでしょうから、電話ボックスで各種チケットの発券や各種支払いも出来るでしょう。携帯電話には無い、現金収受機能の活用で、コウシュウコマースの可能性は拡大します。携帯電話と合体させた雑居の利用法もありそうです。

(予報) 市民と窃盗犯の対立で進化した防犯機器は、バリアフリー機器としても注目される。

玄関のシリンダー錠をピッキングされるような犯罪は、いまや日常化。ホームセンターには、防犯機器が並びます。でも、最新防犯機器は、犯罪対策ばかりに役に立つものではありません。鍵穴の無いリモコンロックは、鍵穴に鍵を差し込むのが困難なお年寄りや障害者にとって便利です。玄関周りに設置した夜間センサーライトは、足もとのおぼつかないお年寄りにはもちろん、誰にとってもケガ防止に役立ちます。番犬のロボットは、お年寄りの話し相手のペットにもなるでしょう。犯罪バリアの装置は、同時にバリアフリーの為の装置なのです。

(予報) 正統英語と日本訛りの英語の比較から、ジャングリッシュが広まる。

グローバル化は英語の必要性を高めています。しかし、ネイティブの言葉を模範とすべきという立場と、各国ごとに発音などに特徴があっても構わないとする立場があります。その対立の結晶、日本人が使いやすい英語とはなにかということに視点が向き、学校英語の呪縛から解放されます。いったん、そうなると、コンセント、サラリーマン、オートバイ、シルバーシートなどの和製英語も、堂々と取り入れていくでしょう。シンガポールの英語は、すでに「シングリッシュ」として、国民の中に定着しています。日本でも日本語との雑種化で、「ジャングリッシュ(Janglish)」などという言語体系も容認されていくはずで。

(予報) 電車内で携帯電話を使う人と迷惑がる人の対立が、モザイクトレインを生む。

あいかわらず、電車内での携帯電話の使用を巡って、トラブルが続いています。他人の会話を迷惑に感じる人、心臓ペースメーカーなどの使用で不安になる人は当然いるからです。もっとも、電車内でこそ携帯を使いたいという場面にでくわすことが多いのも事実です。ならば、もっとはっきりと、女性専用車両や弱冷房車両のように、電話したい人専用車両を1両作ってもいいかもしれません。一括してだめという均質性がいけないのです。これからは、好みや立場に合わせて車両が選べるモザイクトレインです。また、長距離電車も、禁電と可電とを車両ごと分けましょう。「おタバコはお吸いになりますか？ お電話はご利用になりますか？」。これが、みどりの窓口での決まり文句です。

(予報) 生え抜き社員と中途入社社員の微妙な反目で、回遊魚型社員の釣り戻しが増える。

大手企業が、中途採用をするようになりました。しかし、会社によっては、生え抜きの社員との軋轢も見られるようです。そこで、注目されているのは、転職していった出戻り社員を再雇用する会社が増えてきたことです。他社の企業経験や専門知識をミックスして、一回り大きくなって帰ってくる。そういう捉え方が当たり前になってきました。まさに、カツオのような回遊魚の発想です。戻りカツオは、脂がのっています。サラリーマンは、出世魚型から回遊魚型に変わるのです。自社の悪い部分も良い部分も、良く知っている。他社の強みも弱みも内包している。こうした他社風土ミックス型の社員は、今後増えていくと思われます。

(予報) 夫婦旧姓派と改姓派の論争で、婚姻命姓権が生まれる。

これまでは、結婚すると、夫の姓を名乗るのが普帳だった女性達。最近では、旧姓を使い続けたいと思う人もいますが、それは家庭の一体感を失うと非難する人もいます。「姓の自由」を巡る意見の相違が、浮かび上がっているのです。そんな中、旧姓・新姓でもめるなら、いっそ新しい姓で戸籍を作りたいという人も出てきます。新生活は新姓活でもあるのです。子供に名前を付ける命名の楽しみに加えて、自分たちの姓を作る「命姓」の権利も生まれるのなら、結婚しようと思うカップルも増え、結婚率も伸びてゆきます。新戸籍法で、新姓活を。

その他の雑種強勢の生活シーン

- 生活時間の進み方に対する現実と期待のギャップが、昭和40年代ブームを生む。
- 越後湯沢などのマンション型腹荘集中地区の周辺住民が感じる違和感から、SEHOが生まれる。
- 図書館と書店のせめぎ合いで、本が借りられる書店が登場する。
- 反対を押し切り、共学化した名門女子大は、骨太のサラリーマンを生み出す。
- コンビニと小型商店の争いの結晶、ウィークリー商店街が客を集める。
- 患者と医師の対立で、法務ドクターが生まれる。
- 外国人と周辺住人の摩擦は、魅力的な雑居性商業エリアを生む。
- アジアの対日感情との対立は、新たな世代の連帯感の中で解消する。
- 犯罪者と市民の対立が、元犯罪者の能力を見込んだ防犯ビジネスを生む。
- 義務教育を巡る価値観の対立から、「休みも教育」という風潮が生まれる。
- 充実した駅内店舗と商店街の競合は、駅の内外を融合したクラインの壺型商業地を生む。
- 学部同士の対立から、学生の学際化が進む。
- 万引きと店舗の対決は、客にも便利な一括精算システムを生み出す。
- 百貨店と激安店の競争から、百貨店の得意なデパ地下食品街がそのまま独立店舗化する。
- 畑違い学部の出身者とメジャー学部出身者の競争で、大学に異学部が誕生する。
- ホームシアターとシネコンの競争から、15分連ドラ番組を上映する映画館が登場する。
- 新入社員採用数の絞り込みで、新卒派遣経験者が集まったベンチャーができる。
- 教員の質の低下を嘆く校長が導入した社会人教員が、教室を生のProject-Xにする。
- 官庁の縦割り意識の対抗心が問題になり、本籍のない役人としての採用が増える。
- 外食ばかりという夫婦は、姑に嘆かれながらも、インドシナ型ライフスタイルを作る。
- 住居とオフィスが同居するマンションの住民の違和感は、マンション機能を充実させる。
- グローバルとローカルの価値対立は、ローカルな味を持つグローバル商品を生み出す。
- 郵政事業と民間企業の競合で、金融機能を持つ宅配会社が生まれる。
- 過激な取材競争が、ミニ放送局の世界的ネットワークを作る。
- 公共空間のデザイナーと表示規制の対立で、ランドスケープ・サインが進化する。
- 使用料の安いミニスペースの取り合いで、本業ではない本屋、銀行、洗濯屋などが出来る。
- テーマパークとスーパーの競合で、シンデレラのカボチャがスーパーに並ぶ。
- 官と民の競合で、安価な労働力を利用した民営刑務所工場ができる。